

軽井沢・公共建築 & 別荘建築

多湿な気候の下で、木材保護に防腐・防カビ性を求める

明治時代、外国人宣教師によって見出された長野県の避暑地、軽井沢。林産地であることから、公共建築や別荘建築には広く木材が使われる一方で、土地柄、夏は湿気が多く、紫外線が強いだけに、建物の耐久性を維持する観点からその保護が欠かせない。かつては、洋風の意匠で設計されたこともあって、木部を塗膜で保護するペンキを用いるのが主流だったが、いまでは、防腐・防カビの必要性に重きを置くと同時に、木材の素材感を表現する意味合いから、木部の保護にはもっぱらキシラデコールを用いている。公共建築や別荘建築での木材保護の考え方と実際に現地取材した。

この地を代表するホテルや店舗の集う旧軽井沢。明治19年、外国人の宣教師が避暑地として紹介したのをきっかけに、ホテルや別荘がこの辺りに建ち並び始めた。「避暑地軽井沢発祥の地」と言ってもいい。

軽井沢観光会館は、その中心地に建つ旧軽井沢のシンボルとも言える存在だ。外観は薄いグレーの塗装を施した下見板張りの洋館。中には、観光案内施設、休憩施設、展示施設などが同居する。

地元の軽井沢町では、明治44年に建てられた軽井沢郵便局舎を譲り受け

て、観光会館として利用してきた。それを1995年、外観を模した建物につくり変えて、観光会館として再び管理運営を担う。

外壁仕上げ材として用いたのは、木材保護塗料であるキシラデコール。グレー系の色を持つ「シルバグレイ」をここでは採用した。新築から十数年を経た昨年12月には、3回目の塗り替え工事を終えた。

林産地で木造建築中心の軽井沢町では、土地柄、建物の耐久性を維持する観点から、木部の保護は欠かせない措置だった。



旧軽井沢の中心地に位置する軽井沢観光会館。この場所明治44年に建築された郵便局舎の外観を模して、地元軽井沢町が1995年に新築した。外壁にはキシラデコールの「シルバグレイ」を採用、昨年12月に塗り替えを終えた

なにしろ、夏は湿気が多い。避暑地に適しているだけあって涼しいものの、湿気を含む暖気が平野部から上がってくると、よく霧が発生する。湿気を吸い込んだ木材は腐れやカビに弱いのので、木造建築では湿気対策が欠かせない。

対策の一つは、外壁の劣化を防ぐ狙いで、軒の出を深くすることだ。軒の出を深くすることで、降雨にも似た霧による湿気の付着を避ける。こう配屋根を採用し、軒の出を深くすることは、地元では気候風土に見合う建築設計上のポイントとして考えられている。

塗装を施すことで木部を保護するのも、重要な手立てだ。

軽井沢では古くから、洋風建築が主流だったこともあって塗料としてペンキが多用されてきた。明治以降、この地で建てられてきた公共建築にしても別荘建築にしても、事情は変わらない。観光会館の原型にあたる軽井沢郵便局舎でも、木部の保護にはペンキが使われていた。

ところが、木造建築でも気密性が高まっていく中で、塗膜で保護するタイプのペンキを利用することは、木材の通気性を損なうこともあって次第に下火になっていく。地元建築関係者は、「耐候性は高いと思いますが、湿気には弱い。塗膜がはがれてくるのも考えものです」とみる。

「さまざまな外壁仕上げ材がある中で、わざわざ木材を用いるということはその素材感まで表現しようということだ

をを求める

と思います。塗膜で表面を覆ってしまうのでは、木材を利用する意味が薄れます」。別の建築関係者はこう指摘する。

ペンキに代わって使われるようになってきたのが、キシラデコールのように、内部にまで染み込んで木材を保護するタイプの塗料だ。

地元で複数メーカーの塗料を取り扱う販売店では、「染み込んで木材を保護するタイプの塗料はいろいろな製品を試しましたが、キシラデコールが防カビ性の観点で最も優れていると評価しています。多湿という軽井沢の気候ではなにより、カビ対策が重要ですから」と、自らの経験をもとに語る。

軽井沢町内に最近建てられた公共的な建築では、東京からも聴衆が訪れるという音楽ホール、軽井沢大賀ホールがやはり、木材保護塗料にはキシラデコールを用いている。完成は2004年12月。昨年はまだ4年目ながら、第1回の塗り替え工事を早くも終えている。

キシラデコールの利用は別荘



【お問い合わせ先】

製造販売
日本エンバイロケミカルズ株式会社
販売所:ICI Paints Oaco GmbH



JR-しなの鉄道軽井沢駅に近い公園の一角に建つ軽井沢大賀ホール。敷地面積約6500㎡、延べ床面積約2800㎡。ソニー名誉会長(当時)の大賀典雄氏から軽井沢町が寄贈を受けた音楽ホールで、2005年4月に開館した。当初は町で運営管理を担当していたが、06年10月以降は財団法人の管理運営に移行した。外壁の木部には、キシラデコールの「やすらぎ」や「ウォルナット」を採用。08年度に塗り替えを実施した



「別荘建築ではかつて、表面に塗膜を作って保護するタイプのペンキが使われていましたが、いまではキシラデコールのように内部にまで染み込んで保護するタイプのものが主流になってきています」(地元塗料販売店)

建築でもすでに一般化している。地元の塗料販売店などでは各種製品を取り扱っていて、それを購入して自ら塗り替え作業をこなす別荘オーナーもいるらしい。塗り替え時の下地処理にペンキの場合ほど手間をかけないで済む点も評価されているのだろう。

木部の保護には、気候風土に見合った適切な措置が欠かせない。内部にまで染み込んで、木材の呼吸を妨げることなく材を保護するキシラデコールは、防腐や防カビを主とする湿気対策に欠くことのできない木材保護塗料と言える。

木とともに生きる。【キシラデコール】
XYLADECOR

JASS18 M-307 適合品

キシラデコールに関する情報満載!
www.xyladecor.jp



消費者を対象に、建材の各メーカーの製品採用状況等をアンケート調査
2008年9月15日現在

大阪 〒541-0051 大阪市中央区奥船場町三丁目6番14号 アーパークス奥船場ビル TEL. 06-6268-3428 FAX. 06-6268-3420
東京 〒105-0023 東京都港区芝浦一丁目2番1号 シーパークSビル9階 TEL. 03-5444-9872 FAX. 03-5444-9860
www.jechem.co.jp